

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101119		
法人名	有限会社 浅善		
事業所名	グループホーム出愛荘		
所在地	滋賀県大津市際川4-13-6		
自己評価作成日	令和3年9月16日	評価結果市町村受理日	令和4年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人滋賀県介護福祉士会
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8番138号
訪問調査日	令和3年11月4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業開設以前より事業者代表が自治会役員で地域社会と関わり、また15年間にわたって母親の介護にもあたった経験を通じ、「施設」ではなく高齢者が最期まで自然体で暮らせるような「住まい」を目指しております。また職員一人ひとりの個性を尊重し「自然体」のケアで利用者、ご家族、地域の方と人間関係を築いていきたいです  
 ・出愛荘近所の利用者様が多く、ご家族様とケアのことを相談しながら一緒に寄り添っていける関係作りがある。  
 ・利用者、ひとりひとりの気持ちを大切に寄り添い職員と利用者、ご家族、地域の方と協力し、日々楽しく笑顔の絶えない家庭的な環境づくりを目指していきたいです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム出愛荘は、地域の住宅の中にとけこんだ、たたずまいである。庭には、季節の花が咲いており、四季折々にボランティアの方が植え替えに来てくださると聞く。近隣の方は、汚物を包むための古新聞を継続的に持参される等地域住民との関係が出来ている。玄関を入ると、可愛い、お地藏様や季節ごとに変化する壁飾りが利用者や訪問者の気持ちを和ませる。入居期間が数年経ち、やや介護度の高い利用者も見受けられるが、言葉、動作、表情等から思いを汲み取り気持ちに寄り添えるケアに職員は努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と共に」「自然と共に」「地域と共に」をスローガンとして毎朝礼時に読み上げ意識付けをしている	新人職員には、基本理念を丁寧に説明し、具体的ケアの実践につながるようにしている。毎日の朝礼でも、理念の確認と振り返りを行い意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も昨年と同様に新型コロナウイルス感染症の影響もあり電話や書面にての報告が主である。	コロナ禍で外出の機会が少なかったが、散歩時には、近隣の方と挨拶を交わしている。地域の清掃活動には、職員が参加している。以前は、地域のサロンに参加し交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も運営において地域サロンのようなことを行ないたい考えを検討しているも進捗状況は停滞している中、新型コロナ感染症のため交流そのものの回数も減っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で対面形式の会議は控え、書面報告式で実施です。内容は感染症対策の報告が主です。	利用者家族・地域包括支援センター職員・地域住民代表・福祉委員の参加で事業所の現状や取り組み、ヒヤリハット等も含め報告し意見交換が行われていたがコロナ禍のため今年度は、書面報告であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市介護保険課とは、利用者の介護保険更新申請時や資料提出等折にふれ連携に努めている。	市担当者とは、必要時には、相談ができる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、定期的に委員会を開催しています。転倒事故ケースより転倒防止のためのケア対応が身体拘束にならないように気をつけるよう意識意識付けにもしています。	身体拘束をしないケアについて勉強会を定期的に行って拘束をしないケアの確認と意識づけをしている。一人で居室にいるのが不安で落ち着かない方には、夜間でもリビングで職員と話をしたり、見守ったりの工夫をして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	時々、身体拘束適正化委員会も活用して、虐待防止についても取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在出愛荘利用者1名の方が制度利用しているため、関係者の方と関わる機会は多々ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の場合必ずご家族に来ていただき、ご理解を得た上で話をすすめるようにしている。改定の場合は文書、電話両方にて確認、説明をさせていただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は主に電話や面会時等にて抽出して、職員会議にて報告して反映に努めている。	面会時や電話、病院の付き添い時に意見や、要望を伺っている。出された意見、要望等は、職員会議で検討し反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職会議、ケア会議、その他の会議に代表者に意見や考えを聞いてもらう場を設けていただき反映するように努めている。会議まで待てないものなどは即日、管理者に確認を行ない実行、再検討に取り組んでいる	会議でも個人面談でも意見や提案はしやすいと職員より聞き取った。職員の提案で柔軟なシフト変更や介護用品の購入等検討があると聞く。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のケア会議に代表者も出席しているので確認の上、整備につとめている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自己意識と職技能力高めるため、事業所としての年度目標と、現場職員から提示される目標を設定してトレーニングしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護事業所やお世話になっている医療関係事業所と情報交換や、相談対応を継続しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前は本人や日頃つながりのある方々(家族、介護サービス関係者など)直接お会いしてお話を伺い、利用開始後はそれを基に本人の何気ない会話より言葉、行動から本人の思いに寄り添うよう、笑いあえるように関係づくりに心を掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等は利用者本人を知ってもらいたいという思いと受け入れる施設のあり方を知りたいという思いがあることを念頭に気持ちを寄り添うように関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方と面談で当事業所を選んだ理由や、一番何を求めているのかを確認して対応に努めている。ケア対応で必要上、初期面接時より権利擁護事業所や医療的サービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	数々の経験のお持ちの方々なので「親」、「家族」、「人生の先輩」、「必要としている存在」、「持ちつ持たれつの関係」と各職員それぞれの気持ちで利用者との関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年度に引き続き、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でご家族様と会う機会も限定的で、電話でのやり取りが主ですが、これまで対応してきた時の気持ちは継続していきたいです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年度と同様、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で具体的な対応は希薄なものですが、継続できるよう出愛荘からの連絡体制やご家族様通じて各関係者に状況報告できるよう努めている。	コロナ禍のため自粛となったが、それまでは、友人が訪ねてきて居室で過ごしたり、友人に合うために外出されていた。コロナが落ち着けば、自治会行事や馴染みの唐崎祭り等に参加したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の顔ぶれが変わっても、利用者同士の談笑される方が4~5名おられる。この時間を大切にしていきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族様は事業所近所の在住者が多いのでばったり再会することあり、お互いの近況報告もすれば、事業所ボランティア活動や、古紙などのご寄付もいただくこともあり感謝しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から思いを理解し、可能な限り本人の希望に沿うよう努めている。新しい情報、気づきがあれば都度追加し、ケア会議、ユニット会議で情報を共有している。	入居前に本人・家族からこれまでの暮らしについて伺って思いや意向の把握をしている。また日々の暮らしの中で何気ない会話や様子から、本人の思いを知るように努めて、会議の中で職員間で共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面接での情報、入居後も利用者本人、ご家族もあれば、面会に来られたお知り合いの方や、馴染みのあったご近所さんより伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人の表情、しぐさ、会話にも注意を払い具体的に記録に記載し、引継ぎ等の記録を確認、それをもとにユニット会議にて現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてケアプラン以外の項目についても話し合いその実施、検討内容がプラン化することもある。ご家族様、主治医、訪問看護、リハビリ師、マッサージ師にも相談して反映するように取り組んでいる。	本人には、日々の暮らしの中で思いをとらえ、家族には、面会時や電話で意見や要望を聞いて介護計画作成に反映させている。	モニタリング、アセスメントも本人・家族の同席が出来ないか検討されてはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の細かな変化も記録して、引継ぎに間違いがないよう伝えまわしていくチェック管理もして各職員の意見参考にして会議等でまとめ、その都度対応を変化させ介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や家族の要望をもとに行政関係者、医療関係者、訪問マッサージ、福祉用具、地域文化交流サービスと連携協力があって支援につながるケースもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で利用者と外部の方たちとの接触は控えている中だが、地域資源は恵まれているので、支援の発展につなげていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在お世話になっている協力病院は臨時往診も応じてくれて大変感謝しております。状況により特別指示書による医療保険の訪問看護利用もスムーズに進めていただいています。	ほぼ協力病院に受診されている。必要時は、往診や、訪問看護も利用されている。通院は、職員が同行することが多いが、家族の同席もある。受診結果は、関係機関で共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医系列の訪問看護ステーションの看護師に来ていただいております。適切なアドバイス、対応の仕方をいただいております。また訪看より主治医との確認調整もしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年同様、今年度も新型コロナ感染症の影響で入院されても面会謝絶のため、入院病院の関係者と電話での連絡のやり取りや、ご家族様に確認の連絡を実施しながら配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より意思確認を伺う書類を用意して把握している。命に関わる事項のため容態変化時に再確認、意思変更もある時はその都度変更している。	変化のある度に、本人・家族の思いを随時確認し、医師、職員が連携を取り、家族の協力も得ながら事業所で、できる最大限のケアを提供できるよう努めている。職員の意見も都度聞いて体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	動脈血酸素飽和度測定値の導入利用で利用者の呼吸が苦しそうな時の検査で初期対応が迅速にできるようになってきたが、AED装置もあるが、呼吸停止、心停止による対応は実践場面が少なくその場を経験している職員は少ないのが課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、台風天候により出愛荘での身近な災害は停電被害と想定し停電、断水を想定しても、そこに感染症も含めたものとなると課題もあります。	定期的に避難訓練が行われている。必要なら、物品の備蓄も備えられている。歩いて避難できる利用者が少なく課題も残る。	近隣との関係も築かれていることから、もう一歩、避難時の役割等についても話会えるといいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の程度、性格、病状を考えその人に合うであろう言葉使いや対応に心掛けている。またこちらの表情、態度でも人それぞれ感じ方が異なるので配慮も必要と感じる	本人に伝わる言葉、なぜその言葉なのかを職員同士意見交換し、確かめ合っている。職員会議の場で話し合い、気になる対応があれば個人的にも話をし、意識づけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話で見つけたり、自分の言葉で表すのが難しい方には過去の趣向からこちらで推測して普段使っている言葉遣いで伝えて働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者に全てのことができるわけではないので歯がゆい思いを職員は持ちつつも、「出来る限りのことは…」と日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好んで服を選べない方が大半なので、職員より身だしなみは気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理作れなくても味見をしてもらうなど参加してもらったり、何を今作っているかを利用者に話しながら食事への関心を持ってもらうようにも心掛けている。	外部発注たか月に10日は手作り食事を提供している。利用者の好みのメニューを中心に考え、特にお寿司は好評である。一緒に作ることは難しいが、盛り付けを手伝ったり、食事の準備が始まるとそばに来て食事を楽しみにする様子が伺われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大半の方はしっかりと食事、水分摂れているが、食べ方に特徴ある方にはそのリズム、食事形態、量を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に訪問歯科による対応も行ない、職員の口腔ケアの意識付けを強化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態、時間を記録にしてパターンを確認して時間を見計らってトイレ誘導を行っている対応で失禁率を少なくしているが、こちらからの声掛けにて対応していただく過程である。	ベツト上でおむつ交換の方も数名ある。トイレで排泄する方には、立ち上がろうとしたり、職員と目が合った時の表情などから読み取って、さりげなく声をかけ、なるべく失禁を減らしてトイレで排泄ができるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回は飲み物としてヨーグルトを飲んでもらい、主に水分をしっかり摂ってもらうことで予防対応に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「入浴されますか？」と伺い、「しんどい」と言われたり、断りの返事となれば見送り対応となり入浴未実施が延びることもあります。寝たきり生活の身体の方達においては必要時ベツト上での清拭、洗髪対応の実施もあります。	アセスメントで聞き取った生活様式から、一人ひとりに合わせた入浴時間で入っていただいている。拒否の方には、無理強いせず気分が向いたところに入ってもらい、希望の方には、同性介助の配慮も行っている。リフト浴も実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に利用者まかせの自由なところもあるが、重度の方には時間おきに一旦ベツト横にさせて体を休ませる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を飲んでいるかファイルがあり、いつ服薬したかの時間も記録にする方もいて慎重に対応を心掛けている。急変時の追加薬、頓服薬には主治医、かかりつけ薬局にも相談対応を心がけるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トイレ行く目的過程で、歩行運動も兼ねて外気浴散歩や事業者内の花壇、展示物を見て回り楽しんでいただく対応も実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年度同様、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もありこの内容の取り組みは乏しいです。実施できても個別に散歩程度です。	「天気がいいから散歩に行こう」という利用者の声に応じて、近隣の散歩には適時出掛けしている。長い距離を歩くことが難しい方が増えているが、車いすで出かけたたり、中庭で外気浴なども行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者出愛荘による完全管理で行っている。中には個人で自身の財布、小銭程度はあり、手元にあるだけで安心を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を持参されている方もいて自ら連絡したり、事業所からはお便りを通じて様子を伝えたり、知人、ご家族からの手紙がきて利用者に渡したり、返事を希望する時は準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を配して採光をよくして、そこに小鳥も来て観賞している。玄関、屋内廊下、リビングなどに日々の写真、リビングから流れる音楽や映像と様々である。季節柄に雛人形、クリスマスツリー等も並べます。	玄関前の廊下には利用者とともに作った季節の飾り物や、行事の写真などが貼られている。対面式キッチンのあるリビングは、生活感があり、空調や除菌、加湿に留意した、清潔で居心地の良い空間で、利用者がゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士、リビング⇔居室間の自力移動しやすい生活導線に配慮と様々な理由からテーブル配置、ソファ位置を決めていて、そこから自ずと利用者まかせの雰囲気でも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使い慣れた生活用品、仏壇等も持ち込みをご家族にお願いして自宅に近い雰囲気でも生活していただけるよう努めている。また行事や面会時の写真を飾り楽しんでいただく施しもしています	備品としてベッドとクローゼットが用意され、入居時に家族と相談して、仏壇や、思い出の品、写真などが持ち込まれている。どの部屋も掃除が行き届いて清潔な環境を保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には名札と顔写真をつけて自分の居室である自覚をされたり、ベットの高さや位置、物の配置を各個人が安全で使いやすいように考えて、状況に応じてその都度変更も応じている。(立ち上がりや歩行の転倒がないように配慮)		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	その他	感染症と向き合いながらのケア対応(日々の対応、災害時における対応など)	感染症にならないように様々なケア対応をできるようにしていく。また感染発症後の迅速な必要な対処ができるようにしていく。	出愛荘独自の感染症対策も実施や、行政、保健所、医療関係者、同業事業所など様々な関係者と協力、連携して感染症予防や発症後の迅速な必要対応に取り組んで行く。	12ヶ月
2	48 48	利用者の日々の生活に笑顔や楽しく過ごしてもらいたい	現状生活から更なる充実感を達成し、利用者の日常生活機能の維持、向上にも繋げていく。	定期的なレクリエーション、体操等での関りをもとにしてに、訪問リハビリステーションのリハビリ師の助言、評価もいただき更なる対応を行っていく。	12ヶ月
3	10	介護計画作成においてモニタリング、アセスメントも本人・家族との関わりが少ない。	介護計画作成においてモニタリング、アセスメントも本人・家族との関わりを増やしていく。	本人、家族との面会時等にお会いできるときに、介護計画についての内容もうかがい確認していく。	12ヶ月
4					12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )